

小出川的环境保全と 子供達への自然環境教育活動

小出川に親しむ会 代表 丹沢 久子

はじめに

小出川は藤沢市の谷戸を源流とし、茅ヶ崎市の西側を流れて相模川の河口付近で相模湾に注ぐ、茅ヶ崎市に残された貴重な緑の空間、水辺環境です。この自然環境を保全していきたい、という願いを込めて、1987年12月に「小出川に親しむ会」が発足しました。以来、小出川に親しみ、楽しみながら、川とふれあい、川を考え、そして行動することを通して、また学校の課外授業に参加して次の世代に自然のありようを伝える活動を通して、人と自然が共存できる環境づくりに貢献することを目的に、次の活動を続けてきました。小出川に親しみながら小出川の動・植物を観察。自然に関する学習をしながら他団体との交流。環境調査。小出川の自然環境を守り、向上させる活動。

活動の基本は定例会です。1988年1月のバードウォッチングを皮切りに、毎月1回、小出川流域の探索、水質・大気測定、川掃除、樹木の下草刈り、野草摘み、等々を行っています。農業生産者との話し合い、小学校の課外授業への参加など子供達や地域の方々との交流も加え、1994年からは川辺でのコンサートを始め、子供も大人も一緒に楽しめる夏の恒例のイベントとして定着しました。行政との話し合いも活動の重要な柱で、地道に活動しています。1996年には会の要望に沿って、小出川は「多自然型川づくり」の川に位置づけられました。活動内容は「小出川通信」で紹介するとともに、環境保全活動の場としました。2002年には15年記念事業活動として活動の「まとめ誌」作成に取り組み、15年誌「小出川」を発行することができました。以下に、幾つかの活動を紹介します。

「多自然型川づくり」の川への取り組み

1990年5月、「小出川に関する要望書」を茅ヶ崎市長、藤沢土木事務所長他に提出し、“現状の土手

を残すこと。溢水対策として流域の休耕田の買い上げ。護岸工事をする場合には自然石を用い、また土手の植生を残す工夫をすること。”などを要望しました。この年、建設省は「多自然型川づくり」の推進を始めました。翌年、「河川審議会」は「多自然型の川づくりを」の提言を出します。時代は、川の再生へ向けて動いていました。

1993年7月、小出川の改修について藤沢土木事務所及び茅ヶ崎市建設部国県道との具体的な話し合いが始まり、翌年2月に、会としての改修具体案を提示しました。県土木部は改修計画の都市計画決定を見直し、1996年に小出川は「多自然型川づくり」の川として位置づけられ、改修が始まりました。その後も、藤沢土木事務所との話し合いを定期的に行い、要望だけでなく、情報交換も行うなど市民と行政との良好な関係を築いています。



自然が残る小出川流域の風景「多自然型川づくり」の採用により

木の葉の散策路の植樹

川は水と緑をバランス良く保つことができれば、都市の中に自然を呼び戻す効果を発揮できます。河川周辺に生態系を保全する緑化を行い、地域の植生にあった緑を回復することで小動物や昆虫、野鳥を呼び込み、生息域を広げ、良い環境を次世代に受け継いでいくこと、このような目的を掲げ



植樹して五年後、下草刈りをしている風景

て行政との話し合いを重ね、植樹の許可を得ました。

1995年11月23日、約70mの範囲に約600本の植樹を行い、「木の実の散策路」と名付けました。茅ヶ崎の植生に合う樹木をなるべく多く植え、多様性を出したいと28の樹種を選びました。植樹後、樹木は元気に育ちました。毎年、年二回春と秋に下草刈り、剪定などの手入れを続けています。今では、散歩をする人も増え、鳥達も集まってきています。この散策路、人にも、野鳥にも潤いを与えてくれています。

学校の課外授業への参加

小出川流域にある小学校の課外授業に積極的に協力しています。1998年、浜之郷小学校の課外授業「小出川」にボランティア先生として、会員数名が参加しました。その後、今宿小学校の「野鳥観察会」、鶴嶺小学校の「小出川を歩く」などの課外授業への参加と続いています。平成14年から学校に教科書以外の課外授業が取り入れられたこともあり、課外授業への参加が定着してきました。

お魚びっくりコンサート

夏の定例会は川遊びです。「川と仲良しになる日・水生生物を調べよう・いかだに乗ろう」と、



観察した野鳥をノートする生徒達（親水護岸にて）

1993年に川遊びを始めました。翌1994年から、これに「川辺のコンサート」を加えました。名付けて「お魚びっくりコンサート」です。会員の他、子供達、地域の方々が多数集まります。楽器のアンサンブルや歌、紙管タイコ、影絵などを演じます。演奏の合間には会員が作った「すいとん」が振舞われ、全員合唱「ぼくたちのうた」を歌って終了となります。今や、大人も子供も、会員も地域の人と一緒に楽しめる夏の恒例イベントとなりました。



親水護岸で行われる夏の恒例イベント「お魚びっくりコンサート」

小出川の環境保全と子供達への自然環境教育活動

小出川に親しむ会 代表 丹沢 久子

水質・大気測定

「小出川に親しむ会」の活動の原点ともいえる活動が環境測定です。のんびりした田園風景だった小出川周辺が、1987年「新湘南国道」が建設され、景観が一変するとともに環境も変わってきました。開発が進み、水や大気の汚染が心配されました。



採取した試料の水質測定風景（鶴嶺公民館にて）

高速道路開通（1988年3月）前のデータが必要と考え、1988年1月から小出川流域の環境測定を始めました。毎年2回、6月と12月に定期的に測定を行っています。水質はバックテスト、大気は天谷式のいずれも簡易測定法です。以来、15年間に亘り定期測定を続けています。

おわりに

川を考え、人と自然が共存できる環境づくりを目指して、様々な活動をしてきました。昨年は、小出川流域の風景、自然に欠かせない「田んぼ」の減少に少しでも歯止めをかけたいとの思いから、稲作を会の活動に加えました。これからも、小出川を愛し、地道に、身の丈で、みんなで楽しみながら、活動を続けていきたいと思います。そして、次世代の子供達へ少しでも多くの自然を残し、伝えていくことができれば、と願っています。